

1998年度

日本フランス語フランス文学会春季大会

研究発表要旨

主催校 成城大学

第12分科会 20世紀(5) 詩 722教室

- 司会 お茶の水女子大学 中村俊直
1. ギルヴィックの多言語体験とレトリック 早稲田大学(非常勤) 田口啓子
2. ヴァレリーにおける変動と無秩序の価値——海のイマージュをめぐって 神戸女学院大学(非常勤) 林直子

第13分科会 語学(2) 733教室

- 司会 聖徳大学 小島慶一
1. フランス語の鼻母音の現状と傾向 アテネ・フランセ 菊地歌子
東京大学(大学院) 竹内京子
2. フランス語表現のExistenceの構造について 金蘭短期大学 三石博行
大阪大学(大学院) Eddy VANDROM

特別講演 14:40 ~ 15:40 7号館4階 007教室

- 司会 一橋大学 恒川邦夫
« Au-delà des langues et des couleurs, que vienne le temps des fraternités »
..... Maryse CONDE
(romancière et professeur à l'Université de Columbia)

報告会 15:45 ~ 16:00 7号館4階 007教室

- 司会 成城大学 高原照弘
総会 16:00 ~ 17:00 7号館4階 007教室
議長 青山学院大学 西澤文昭
閉会の辞 成城大学 早川基

懇親会 18:00 ~ 20:00 京王プラザホテル

- 司会 成城大学 中條屋進
開会の辞 成城大学 西節夫
挨拶 成城学園長 本間長世
閉会の辞 成城大学 一之瀬正興

フランス語表現の Existence の構造について

金蘭短期大学 三石博行 大阪大学 Eddy VAN DROM

1. Modalités、Relation logiques、Discours explicatif の構造

フランス語の表現の分類を通じて、Modalités、Relation logiques、Discours explicatif の3つの要素によってその表現が構成されていると分析した。ここで定義する Modalités とは、話し手の主観性を表現するために用いられる表現の在り方で、Relation logiques とは文の論理的関係を表現するために用いられる表現方法で、Discours explicatif とは表現の強度や強調を示すための表現方法である。

主な表現の構造は Relation logiques を意味する。そして、Modalités や Discours explicatif は、その表現の付随的な部分であるともいえる。しかし、あくまでも表現とは言語に主体の主観的な意図やそのニュアンスが付属するものであると考えるならば、Relation logiques を表現方法の主要な部分と考え、Discours explicatif や Modalités を副次的な構造と考えることは間違いであると思われる。

我々のこうした表現方法の分類学から、Modalités を構成する要素は主に 4 つあり、それを細分すると 41 種類の表現方法が考えられる。また、Relation logiques は 14 の論理的に異なる表現に分けられ、さらにそれらを細分すると 44 の表現方法があった。更に、Discours explicatif の構造フランス語表現の構造を分析すると、3 種類の要素に分けられた。そして 17 の表現方法によって構成されている。それらを簡単に表に示して説明する。

2. Existence の構造

Modalités、Relation logiques、Discours explicatif の要素を以て構成されるフランス語表現方法の基礎に Existence の構造を仮定した。ここで定義した Existence とは言語表現方法の土台を成すものであり、従ってフランス語のみでなく、全ての言語の根底にある基本構造であると考えられる。Existence と呼ぶ構造の要素について述べる。

a. 肯定 positif と否定 négatif

Existence 構造の最も基本的な要素として肯定 positif と否定 négatif がある。ここで肯定 positif と呼ぶものは表現主体の意識が肯定的な状態を意味するものである。言い換えると、表現しようとする主体が、表現しようとする主体の欲望の対象を表現主体に所有させようとする状態を意味する。逆に、否定 négatif と呼ぶものは表現主体の意識が否定的な状態を意味するものであり、表現主体が意識する対象を彼から排除しようとする状態や避けたり逃げようとしている状態を意味する。

b. 質 qualité、空間 espace、時間 temps と量 quantité

さらに、Existence の構造は質 qualité、空間 espace、時間 temps と量 quantité によって構成されると仮定した。質 qualité とは moi と non-moi によって構成され、空間 espace は ici と non-ici によって構成され、時間 temps は maintenant と non-maintenant によって構成される。そして量 quantité は un と non-un によって構成させていると仮定した。

現実の言語表現では、肯定 positif と否定 négatif の構造と、上記した質 quality、空間 espace、時間 temps と量 quantité り要素の組み合わせによって、その基本的な構造を構成していると考えた。これらの表現方法の基本構造のモデルを図で示す。

3. 問題提起

これらの構造論的な表現方法の分類の研究から、今後の日仏翻訳機能の性能を高める情報処理技術にこの理論を活用し得るかが課題となる。